

## 被災者支援拠点運営訓練 プログラム

1. 日時:2013年3月25日(月) 17:00~22:00 及び翌26日(火) 7:30~12:00
  - ※ 宿泊体験ができますが、帰宅してもかまいません。
  - ※ 25日の夕食と26日の朝食は、非常食などが中心ですが用意します。
  - ※ トイレはありますが、入浴設備はありません。
2. 場所:日本財団ビル1階バウルームおよび2階会議室
3. 内容:2つのシナリオに基づく避難体験訓練
  - ※ シナリオA(被災者の受け入れや長期間の避難所運営への準備のない場合)とシナリオB(被災者受け入れの準備が十分に整った場合)を用意し、時間別に2つのシナリオを体験して頂きます。
  - ※ 首都直下型地震の発生を想定し、3月25日は発生直後の避難生活体験を、26日は震災から10日目の避難所を想定した避難生活体験をそれぞれ行います。
  - ※ 避難者のニーズ把握や食事の準備等、避難体験中に運営側の訓練に参加して頂く場合もあります。

### スケジュール

25日(月)	
17:00	参加者受付(1階ロビー) ・参加者オリエンテーション
17:30	シナリオAに基づく訓練:19:30までに避難者名簿の作成と夕食の提供を行う ・日本財団職員による施設の説明 ・参加者のグループ分け等 ・備品および食事の配布
19:30	シナリオBに基づく訓練:21:00までに避難者ニーズを把握し、就寝準備 ・実行委による施設の説明 ・参加者のニーズ把握と物資配布 ・生活スペースの確保と就寝準備
21:00	全体ふりかえり
22:00	1日目プログラム終了
26日(火)	
7:30	発災10日後を想定した朝食
8:00	シナリオAに基づく訓練:9:30までにニーズアセスメントを行う ・健康状況や帰宅 or 継続避難などをヒアリング ・避難スペースの整理や清掃を行う
9:30	シナリオBに基づく訓練:11:00までにニーズアセスメントを行う ・健康状況や帰宅 or 継続避難などをヒアリング ・避難スペースの整理や清掃を行う
11:00	全体ふりかえり
12:00	2日目プログラム終了

シナリオA・・・被災者の受け入れや長期間の避難所運営への準備のない場合  
シナリオB・・・被災者受け入れの準備が十分に整った場合

## 被災者支援拠点運営訓練を実施する背景

東日本大震災では最大で30万人を超える人々が、体育館や公共施設などで避難生活を送りました。私たちは東日本大震災直後に「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」を組織し、宮城県内の避難所を巡回して細かなニーズを確認して専門性の高いNPOにつなぐ活動を展開しました。しかし、ガソリンや物資の不足も重なり、避難所での避難生活は想像を遙かに超える厳しい状況で、中には命を落とす人もいました。今回、震災関連死と認定された1,600人を超える人々のうち、避難生活での疲労が原因とされる方は3割にのぼります。危機的な状況の発生を予期していながら回避できず、せっかく助かった命が避難生活の中で失われてしまったことは慚愧に堪えません。

そこで私たちは、緊急救助やがれきの片付けなどの影に隠れがちであり、支援者や避難者自身も課題に気づきにくい避難所での生活に着目し、災害発生時に地域の被災者全体を支援する「被災者支援拠点」としての避難所のあるべき姿や、支援のあり方をモデル化して示す試みに挑戦します。あるべき避難所の姿を過去の災害での経験を元に実際に再現し、首都直下型地震が発生したことを想定して、再現された避難所で宿泊型の避難訓練を実施します。

訓練で得られた知見を元に、私たちは次の災害に備えた実践的で具体的な避難所運営マニュアルの提言や、被災者支援のためのしくみづくりに取り組みたいと考えています。次の災害への備えをより実りのあるものとするために、訓練への参加や協力をお願いします。